

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

地域の様々な人々と連携・協働し、夢の実現をめざして本気で挑戦し、自ら考え行動できる人材を育てる学校をめざす。

- 1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。
- 2 規範意識・人権意識を育み、社会的基礎力（踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身につけた人間を育成する。
- 3 外国語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む21世紀を多様な人々と共創できる人間を育成する。

## 2 中期的目標

1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。

(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざして授業改善に取り組み、生徒の学習意欲のさらなる向上、学習習慣の確立を図る。

ア ICT機器を効果的に活用し、アクティブラーニングなど指導法の工夫・改善をすることにより、「主体的・対話的で深い学び」となる授業を行う。

イ 1人1台端末を効果的に活用し、学習活動を一層充実させるため、「生徒1人1台端末利活用プラン」に基づき、計画的かつ組織的に取組みを進めていく。

ウ 3年間を見通し、授業見学や情報交換を行う中で、授業のコツやノウハウを共有し、授業改善・授業力の向上に取り組む。また、地域の中学校と連携し、出前授業による交流を推進する。

※授業アンケートにおける授業満足度について令和7年度も80%以上を維持する。(R2:80%, R3:80%, R4:82%)

エ 「ながのガリレオ計画 ～ひらめきをキラメキに～」(令和5年度学校経営推進費)

※課題研究などの成果を活かし、大学の総合型選抜の合格者を15名以上(R6年度)。

※「課題研究などの探究活動によって、進路決定や進路希望実現への意欲が高まった」生徒の割合80%以上(R6年度)。

※「地域連携や国際交流を通して、違いを認め、相手を尊重する態度が身についた」生徒の割合80%以上(R6年度)。

※地域や海外との交流および会議を10回以上開催(R6年度)。

(2) 学校一体となって、「学習する体制」を整え、生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。

ア 3年間を見通し、1年次から計画的に「学習会」を開催し、生徒のモチベーションの向上を図る。

イ 大学や外部教育産業とも連携しながら、生徒一人ひとりの進路支援体制・学習支援体制のさらなる充実を図る。

ウ キャリア教育や課題研究など「総合的な探究の時間」における取組みを学校全体で組織的に行う。

※生徒の進路達成満足度について令和7年度においても90%以上を維持する。(R2:98%, R3:98%, R4:97%)

2 安全安心な学びの環境を整えるとともに、規範意識や人権意識を育み、社会的基礎力（踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身につけさせる。

(1) 生徒の人的・社会的自立を支援するとともに規範意識を身につける指導体制を確立する。

ア 学校全体が同じ基準でぶれない生徒指導・支援体制の充実を図り、遅刻指導、挨拶や礼儀・マナーの指導に全教職員が継続して取り組む。

イ クラス活動、生徒会活動、学校行事、部活動等を通して、生徒の自主性を重んじながら社会的基礎力を育成する。特に行事の活性化に取り組み、学校生活に対する充実感を高める。

また、部活動を通して、何事にも一生懸命取り組み、継続して活動できる力を育成する。

※保護者向け学校教育自己診断における生徒指導体制への肯定率を令和7年度には70%以上を維持。(R2:51%, R3:53%, R4:73%)

※各行事に対するアンケート結果による満足度について令和7年度においても85%以上を維持。(R2:94%, R3:86%, R4:88%)

(2) 生徒一人ひとりの支援体制・教育相談体制を充実させ、専門関係機関と連携しながら学びに向かう環境づくりを図る。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の肯定率を令和7年度75%以上維持する。(R2:72%, R3:70%, R4:73%)

(3) 情報ネット社会における人権侵害やいじめなど今日的課題について学び、1人1台端末の導入を踏まえ、情報リテラシー・情報モラルを高める。

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する肯定率を令和7年度80%以上維持。(R2:77%, R3:77%, R4:83%)

(4) 自然災害等を含め緊急事態発生時に地域と連携して迅速かつ適切な対応ができる組織体制の整備を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における、学校安全に関する項目の肯定率を令和7年度には80%以上を維持。(R2:74%, R3:74%, R4:80%)

3 外国語教育、国際教育のさらなる充実を図り、Society5.0時代の到来に向け、グローバル社会に対応できる多様な人材を育成する。

(1) 英語や他の外国語でのコミュニケーション能力のさらなる向上に取り組むとともに、論理的思考力・課題発見・解決能力・探究力の育成を図る。

ア 少人数展開授業、ICT機器等の活用、アクティブラーニング型の授業等により、一人ひとりが主体的・意欲的に取り組む授業を実践しながら4技能（読む、聞く、話す、書く）をバランスよく伸ばす。特に話す力の育成に努める。

イ 姉妹校交流、海外研修、その他国際交流に係る取組みを充実・発展させ、さまざまな国々との交流等を通じて実践的語学力をさらに向上させるとともに文化や習慣の違いを尊重する精神等を育むように努める。

ウ 第2外国語の成果発表会（校内・校外）を行うとともに、その取組みを地域の中学生や保護者に公開する。

※外国語に関連する科目の授業アンケートにおける授業満足度について、令和7年度においても80%以上を維持する。(R2:81%, R3:81.2%, R4:81.3%)

第2外国語に関連する科目の授業アンケートにおける授業満足度について、令和7年度においても85%以上を維持する。(R2:89%, R3:88.2%, R4:90.2%)

(2) 国際教育、ESD（持続発展教育）に関する行事の充実・発展に取り組む、ユネスコスクールとして国際教育のレベルアップを図る。

※生徒向け学校教育自己診断において、国際教育（ユネスコ活動を含む）に対する肯定率について、令和7年度85%以上をめざす。

(R2:82%, R3:70%, R4:78%)

4 地域・保護者とつながる魅力ある学校づくりと情報発信をさらに推進する。

(1) 中高連携、高大連携、地域連携等を密にし、地域社会に貢献し、地域に必要とされる学校づくりを推進する。

(2) ホームページ・携帯連絡網等を通じて、広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。

※保護者向け学校教育自己診断における保護者への連絡・情報提供の満足度を令和7年度には75%以上とする。

5 校内運営体制の改善と人材の育成を推進する。

(1) 業務の精選と簡素化を図ると同時に、在校時間等管理及び健康管理を徹底するとともに教職員の意識改革を推進する。

(2) 「育てたい生徒像」を念頭に、本校の将来を見据えながら、教員を育成するシステムの構築を図る。

※時間外業務の年間時数（一人あたり平均）について、令和7年度には1割減（R3年度比）とする。(R2:62%, R3:61%, R4:57%)

(3) より確かな人権感覚を身につけ、ハラスメントのない快適な同僚性の高い職場環境をめざす。

ア 職場におけるハラスメント防止に向けて、指針の周知徹底を図るとともに、校内研修を実施するなど教職員の意識啓発を一層図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b>            学習に関して、「視聴覚機器やコンピュータ、プロジェクター等を活用している」が87%と前年度比5%減となったものの、「学校は1人1台端末を効果的に活用している」が82%と前年度比8%増となっており、1人1台端末の活用が進むにつれ、視聴覚機器の使用が減ったことが原因と考えられる。「講習など授業以外の学習機会が設定されている」は全体で70%を下回り、特に1年生が前年度比16%減である。また、「進路指導について適切な情報提供やアドバイスをしている」について、前年度の同学年と比較すると、3年生は上回っているものの、1・2年生はともに10%以上の減である。各種テストの結果を分析し、きめ細やかな指導を行うとともに、学校として学習の機会や進路指導を適切に設定しているか見直しが必要である。</p> <p>保護者の「授業がわかりやすく楽しいと言っている」の肯定的な回答は大きく伸びた前年度から7%減の52%であったが、一昨年度比では11%増である。否定的な回答については、現3年生の経年変化と同様に、下級学年ほど高い傾向にあることから、「主体的、対話的で深い学び」に向けて、指導法のさらなる工夫・改善が必要である。</p> <p><b>【生徒指導等】</b>            「学校の生徒指導方針に共感できる」について、生徒の肯定的回答が44%にとどまっています。学校の指導方針と生徒との意識に乖離が見られる。校則や指導の在り方については、今年度末までに一定の見直しを図るとともに、引き続き生徒・保護者のみならず学校運営協議会における意見も踏まえ検討していく。学校行事については、肯定的な回答が67%で、大きく伸びた前年度比3%減であった。また、生徒会について「積極的に活動している」は昨年度の76%から65%と10%以上の減となっているが、活動自体に変化は見られないことから、学校運営協議会において指摘があったように、生徒同士のコミュニケーションの希薄さにより、活動が見えにくいことが要因の1つと考えられる。</p> <p>これら生徒指導にかかる改善、学校行事および生徒会活動のさらなる活性化が求められており、生徒指導部の教員数を増やし、生徒会を中心として、生徒への支援体制を強化するなどの対応が必要である。</p> <p><b>【学校運営】</b>            本校の特色である「国際教育が充実している」について、生徒の肯定的回答は、一昨年度70%、昨年度78%、そして今年度86%との年々大きく伸びてきており、引き続き海外研修や外部機関と連携した取組みの充実を図っていきながら、本校の強みとして、特に国際文化科の取組みをより積極的に広報していく必要がある。</p> <p>情報発信については、本校の特色や新たな取組みについてTVや新聞等で取り上げていただいたり、SNSによる発信やアプリを活用した連絡網の構築も始めたりした結果、保護者の「HPや携帯連絡網サービスで学校の様子がよくわかる」に対する肯定的回答が60%（前年度57%）とわずかに改善したものの、引き続きホームページの改修を進めていく必要がある。</p>	<p>第1回（6月30日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガリレオ計画への思いや意志を生徒も理解し、自覚をもって長野の生徒として胸を張って取り組んでほしい。</li> <li>・学習状況の改善が必要。社会に出るためには現実を理解させる必要がある。</li> <li>・ICTは施設だけでなく実行して初めて意味のあるもの。学力が落ちていく生徒は少ないが伸び悩む生徒への手立てを考えるべき。</li> <li>・スマホばかりでどうかと思っていたが、ICTを考えるとすべてが悪いわけではないと感じた。時代の傾向を踏まえて将来につなげてほしい。</li> <li>・コロナがあけて国際文化科の取り組みをどうしていくか。新採の離職率の高さをふまえてギャップへの対応力をつけてほしい。</li> <li>・学習時間の長さは大学まで引きずる。学習時間が定着するような取り組みを。シンプルに課題のみではなく、やることで何かメリットがある等。</li> </ul> <p>第2回（11月24日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室利用者が増えたことは分析が必要。配慮が必要な生徒が増えることへの対策が必要なのは。</li> <li>・高校から支援を始めるのではなく、小学校から診断や支援を始めていかないといけない。</li> <li>・欠席や遅刻も増えた。コロナの影響で休みやすくなったような気もする。</li> <li>・生徒同士のコミュニケーションでひっぱっていくなどの工夫ができればよいが、関わりが薄くなっているようにも感じる。</li> <li>・働き方改革についてほかにできることはないか。デジタル採点だけでなく、AIの活用やピアサポート・他校の取り組みを共有等。</li> <li>・3年生進路決定は①指定校②公募③一般という流れがある。入ってからのビジョンを明確にする必要がある。</li> </ul> <p>第3回（2月9日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員研修は素晴らしい。</li> <li>・ヤングケアラーについて、話を聞いてもらったり、相談したりする相手がいないと、年齢的に進路も含めて悩みが少なくない時期でもあるだろうし、声を拾ってあげないと学校に来られなくなる。</li> <li>・国際文化科は、長野高校にとっての強みであり、色々な経験が在学中にできることによって満足度が上がる。</li> <li>・語学留学があると知って、長野高校に行きたいと（お子さん）が言っていた。もっとそういうのを発信すべきである。</li> <li>・学校から語学研修に行けるということで安心感がある。</li> <li>・長野高校の魅力をもっと広報すべきである。</li> <li>・どの魅力をどう出していくか。何をしていけばいいかという点をより明確にする必要がある。</li> <li>・アンケート結果で、部活動に関することが低くなっている。</li> <li>・部活動で引っ張ってあげることが必要である。</li> <li>・子どもたちが主体的に動けるような仕掛けが必要。</li> <li>・親が子どもとコミュニケーションを図るのに困っていないか探れないか。</li> <li>・生徒指導についての満足度が低すぎる。この数字で遅刻や化粧等の指導に労力をかけるのはナンセンス。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成	<p>(1) 生徒の学習意欲の向上、学習習慣の確立を図る。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。</p>	<p>(1) イ・学期ごとに1人1台端末の導入が「活用プラン」に基づき効果的に活用できているかの検証を行う。</p> <p>ウ・学力生活実態調査や授業アンケートを分析し、3年間を見通した教科等の計画に基づく学力の向上をめざした授業改善を推進する。</p> <p>エ 「ながのガリレオ計画 ～ひらめきをキラメキに～」(令和5年度学校経営推進費)</p> <p>(2) ウ・キャリア教育や課題研究など「総合的な探究の時間」における取組みを学校全体で組織的に行う。</p>	<p>(1) イ・ICT活用指導力向上に係る教員研修を年3回実施し、同研修に対する満足度80%[新規]</p> <p>ウ・授業アンケートの授業満足度80%以上を維持する。[82%]</p> <p>エ・課題研究などの成果を活かし、大学の総合型選抜の合格者を5名以上。[新規] ・「課題研究などの探究活動によって、進路決定や進路希望実現への意欲が高まった」生徒の割合60%以上。[新規] ・「地域連携や国際交流を通して、違いを認め、相手を尊重する態度が身についた」生徒の割合60%以上。[新規] ・地域や海外との交流および会議を2回以上開催。[新規]</p> <p>(2) ウ・生徒の進路達成満足度について90%以上を維持する。[97%] ・課題研究における「プレゼンテーション力の向上」などについての肯定率を80%以上とする。[新規]</p>	<p>(1) イ・「ながのガリレオ計画 ～ひらめきをキラメキに～」に合わせてICT活用指導力向上に係る教員研修を実施予定であったが、同施設の整備が3月と大きく遅れることとなったことから、電子黒板機能付きプロジェクターの説明会のみ実施(△) ウ・授業アンケートの授業満足度84%授業公開月間を設定し、全教員が授業を1回以上公開するとともに、1回以上授業見学を実施し、授業力向上を図った(○) エ・「ながのガリレオ計画 ～ひらめきをキラメキに～」に係る施設整備が3月と大きく遅れることとなったことから実施できなかった(評価なし)</p> <p>(2) ウ・生徒の進路達成満足度について90%以上を維持する。[97%](○) ・課題研究における「プレゼンテーション力の向上」などについての肯定率80%(○)</p>
2 安全安心な学びの環境整備、規範意識の醸成	<p>(1) 規範意識を身につける指導体制を確立する。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの支援体制を確立する。</p> <p>(3) 人権意識の向上を図る。</p>	<p>(1) ア・基本的生活習慣を確立し、遅刻指導、身だしなみの指導等、組織全体で指導、支援の観点から生徒に対応する体制を整える。</p> <p>イ・行事の活性化に取り組み、学校生活に対する充実感を高める。</p> <p>(2) 支援体制・教育相談体制を再構築し、専門関係機関と連携しながら、支援を必要とする生徒に対して適切な対応を行う。</p> <p>(3) LHRや教科指導において、偏見や差別を許さない教育を推進する</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断における生徒指導・支援体制の肯定率50%以上をめざす。[48%]</p> <p>イ・体育祭や文化祭において実行委員会を組織するなど活性化に向けた体制作りを行う。</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の肯定率を75%以上とする。[73%]</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断の「人権について学ぶ機会がある」80%を維持する。[83%]</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断における生徒指導・支援体制の肯定率54%。評価指標として設定した数値は達成したものの、生徒指導の肯定率は改善が必要(○) イ・体育祭や文化祭において実行委員会を組織するなど活性化に向けた体制作りの準備を行った(○)</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の肯定率64%。日常的に相談しやすい雰囲気作りが必要(△)</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断の「人権について学ぶ機会がある」77%。最終の人権HRが3学期の実施のため、学校教育自己診断は2学期までの実施分に対する評価(△)</p>

## 府立長野高等学校

<p>3 グローバル社会に対応できる多様な人材の育成</p> <p>外国語教育、国際教育のさらなる充実を図り、</p>	<p>(1)外国語でのコミュニケーション能力のさらなる向上に取り組む。</p> <p>(2)国際教育、ESDの充実・発展に取り組む。</p>	<p>(1) ア・生徒が主体的・意欲的に取り組む授業を展開することで、英語の4技能をバランスよく伸ばす。特に話す力を育成しプレゼンテーション力を高める。 ・第2外国語(独、仏、中、韓)において、共通した教授法の開発に取り組み、中学生に対して出前授業を行う。</p> <p>イ 姉妹校交流をはじめとする国際交流行事を通じて、実践的英語力をさらに向上させる。</p> <p>(2)校内における国際教育、ESDに関する行事(ユネスコスクールの取組みを含む)について大学等と連携し、高校生ができる社会貢献事業を行っていく。</p>	<p>(1) ア・英語、第二外国語に関する授業アンケート満足度をそれぞれ82%、85%以上を維持する。[英語81.3%] [第2外国語90.2%] ・中学生による出前授業満足度80%以上を維持する [89%]</p> <p>イ・国際交流等各行事の参加者の満足度80%以上を維持する。[100%(R4 コロナ禍で※コロナ禍でデンマークの高校生との交流のみ実施した際の満足度)]</p> <p>(2)生徒向け学校教育自己診断において本校国際教育(ユネスコ活動を含む)に対する肯定率75%以上を維持する。[78%]</p>	<p>(1) ア・英語、第二外国語に関する授業アンケート満足度がそれぞれ78.7%、98.1%。特に第二外国語に関する授業評価が著しく上がった(△) ・中学生による出前授業満足度99%事前研修含め指導力が向上(◎)</p> <p>イ・国際交流等各行事の参加者の満足度100%(◎)</p> <p>(2)生徒向け学校教育自己診断において本校国際教育(ユネスコ活動を含む)に対する肯定率86%に大きく上昇(◎)</p>
<p>4 地域・保護者との情報発信</p> <p>魅力ある学校づくり</p>	<p>(1)中高連携、高大連携、地域連携等を通じて地域に根ざした学校づくりの推進</p> <p>(2)広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。</p>	<p>(1)学年、各教科、部活動等様々な形で、市役所事業所、他校種と連携する取組みを継続する。</p> <p>(2) 広報活動について、ホームページをリニューアルするとともに、SNSを活用した広報も行う。</p>	<p>(1)参加生徒の地域連携、地域貢献の満足度について80%以上を維持する。[82%]</p> <p>(2)保護者向け学校教育自己診断における広報に関する満足度を65%以上とする。[57%]</p>	<p>(1)参加生徒の地域連携、地域貢献の満足度について100%(◎)</p> <p>(2)保護者向け学校教育自己診断における広報に関する満足度を60%。SNSによる発信は評価されているもののHPの改修が不十分(△)</p>
<p>5 校内運営体制の改善と人材の育成</p>	<p>(1)業務の精選と簡素化、時間外業務の減少をめざす。</p> <p>(2)教員を育成するシステムの構築を図る。</p> <p>(3)より確かな人権感覚を身につける</p>	<p>(1)定時退勤日の設定および徹底含め、教職員の負担軽減を考慮しながら、業務や組織の見直しを図り、校務の効率化を図る。</p> <p>(2)「主体的、対話的で深い学び」の実現に向け、ICTの効果的活用に係る研修等により、全ての教職員のICT活用指導力を向上させる。</p> <p>(3)研修を通して、より確かな人権感覚を身につけ、ハラスメントのない快適な同僚性の高い環境を組織全体で創出する。</p>	<p>(1)時間外業務の年間時数(一人あたり平均)について、前年度比減をめざす。[5%減]</p> <p>(2)ICT活用指導力に係る研修に対する満足度80% [85%]</p> <p>(3)教員研修に関するアンケート調査において、肯定回答率について75%以上を維持する。[81%]</p>	<p>(1)時間外業務の年間時数(一人あたり平均)について、前年度比減をめざす5.6%(○)</p> <p>(2)ICT活用指導力に係る研修は「ながのガリレオ計画～ひらめきをキラメキに～」に合わせてICT活用指導力向上に係る教員研修を実施予定であったが、同施設の整備が3月と大きく遅れることとなったことから、電子黒板機能付きプロジェクターの説明会のみ実施(△)</p> <p>(3)教員研修に関するアンケート調査において、肯定回答率100%(◎)</p>